

Acta Epsilonica

Online First, Pages 1–2.

Received: February 21st, 2016, Accepted: February 22nd, 2016.

Group Epsilon Meeting 2016 #1 開催報告

杉浦健一 *

Group Epsilon Meeting 2016 #1 が 2016 年 1 月 17 日に Z 会新宿教室にて開催されました. 新年の最初のミーティングは例年大学入試センター試験と同日に開催されており, 今年もセンター試験の二日目となる日に開催されました. 2014 年の 1 月に Group Epsilon が発足してから三年目に入り, 今回のミーティングはその初回となりました.

今回のミーティングは山下弘一郎さんによる Opening Address から始まり, 葦塚凌平さん, 廣翔吾さん, 荻田裕也さんによる各一時間の講演が行われました. 講演者を含め計 18 名の方がミーティングに参加してくださいました.

はじめの Opening Address では新年の挨拶に加えて Group Epsilon の現状や今後の方針について話していただきました. 具体的には, “Reading Articles in the Street at $\mathbb{C}P^1$ (RASE)” と称した専門的な論文を互いに紹介する気軽に参加可能な subseminar を行うことの提案などがされました.

葦塚さんの講演は微分幾何学を用いた曲面論についての講演で, はたして地球の等長地図を平面に描けるのか, という内容でした. 主にガウスの驚異の定理を用いることで等長地図を描くことは出来ないことがいえるという結論でしたが, 定理の数学的解釈やガウスの定理を現実の地図という身近なものに应用するという内容が反響を呼んでいました. 講演内では球面のみを扱いましたが, もし図形がトラスだったらどうなるのか, など議論も盛んに行われていました.

廣さんの講演は整数論についての講演で, フェルマーの最終定理の 3 次の場合の証明が行われました. この講演では整数 $\mathbb{Z}$ に 1 の三乗根を加えた $\mathbb{Z}[\omega]$ という数の集まりを考え, そのうえで整数論を展開することで証明がおこなわれました. フェルマーの最終定理はその定理の内容自体は中学生でも分かるような内容でありながら, 背後には深い数学があることが伝わる興味深い講演でした. 整数論の講演は今までになかったため新鮮な講演になったと思います.

最後の荻田さんの講演は, 意識とはどのようなものか, また意識をどのように定量的に扱うか, というテーマでの講演でした. 意識の臨床的な立場からの考え方や, 医学的に脳の活動をどのように観察するかということが紹介され, 意識の定量的な評価の方法の一つとして脳神経のネットワークの統合情報量が指標になるという理論が紹介されました. まだ発展途上の理論の紹介ということもあって, 今後のこの分野の発展が期待される講演となりました.

* 早稲田大学 先進理工学部 物理学科, sugiken_nw87pt (at) yahoo.co.jp.



図1 (左上) 廣さんの講演の様子, (右上) 休憩時間の様子, (下) ミーティング参加者の集合写真

今回のミーティングでは講演の間に長めの休憩時間を設けましたが, その間にも講演内容について様々な議論が交わされており, 大変有意義な時間となりました. また, 毎回恒例の懇親会 ($\forall \epsilon \exists \delta \dots$ にかけて “delta” と呼んでいます) もミーティング後に開催され, こちらの方も大変盛り上がっていました.

各講演の詳しい内容については quick review にも詳しく書かれていますので是非ご覧ください.

今回は数理系の講演が3つとなりましたが, Group Epsilon は文系理系に捉われず, 様々な分野の人が集まり, 話が聞けることが大きな特徴です. 今後も幅広い専門からの講演や話を聞ける場としても Group Epsilon を発展させていけたらと思います.

最後に, 今回のミーティングに際して, 会場を貸してくださった Z 会の戸神星也さん, 当日運営を手伝ってくださった皆様, そして講演者と参加者の皆様にこの場をかりて感謝を申し上げたいと思います.